

平成 21 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520465

研究課題名（和文）良質な教員採用試験（英語専門筆記）の研究開発及びその波及効果について

研究課題名（英文）Validating the (first-written) employment examinations for Japanese secondary school teachers of English and their washback effects

研究代表者

脇田 博文 (WAKITA HIROFUMI)

龍谷大学・国際文化学部・教授

研究者番号：40352934

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、英語教育

キーワード：教員採用試験、英語、英語教員、波及効果

1. 研究計画の概要

優秀な英語教員を確保するためには、何よりも養成・採用・研修各段階の総合的な充実を図ることが喫緊の課題となる。とりわけ、教員採用試験のあり方は、教員志望者や教員養成課程の内容に大きな影響を与えるものであり、その改善は極めて重要だと考える。また、採用試験そのものは、教壇に立つ者の資質を選定する手段であり、その妥当性の検証は不可欠である。

本研究は、日韓の比較に立って、包括的な試験制度のあり方について検討を加えつつ、とりわけ1次英語専門筆記試験に焦点化して、優秀な英語教員を担保するための良質な教員採用試験（英語専門筆記）の研究開発及び波及効果について探求することを目的とする。また、研究過程で問題になった英語教員に求められる資質能力とは何かについても併せて中心課題として考察を加える。

2. 研究の進捗状況

日韓の英語教員採用試験に関する情報・資料収集の他、以下のような点について取り組んできた。

(1) 日本の中高英語教員を対象に日本と韓国の英語専門筆記試験に関する意識調査を行い、教員採用試験としての有効性・妥当性について検討した。

(2) 優秀な英語教員を担保する制度として機能する韓国教員任用試験の制度的背景を振り返った上で、過去5年間の1次英語専門筆記試験問題の分析と考察を通して、韓国の中高等学校英語教員に求められる知識・能力につ

いて明らかにした。

(3) 中高等学校英語教員に求められる資質能力に関わって、韓国中高等学校任用試験制度の改革に伴う英語教員資格基準と評価方法の研究開発について研究を行った。

(4) 日本の英語教員採用試験の状況について資料・情報収集を行い、実状及び問題点について明らかにした。併せて、TOEIC・TOEFL等の活用状況について全国調査を行い、分析・考察を行った。

(5) 英語教員に求められる能力を測定するためのクライテリアとサンプル問題を開発した。

(6) これに基づいて、日韓の英語教員を対象にして英語教員採用試験に関する意識調査を実施し、英語筆記試験の採用試験制度全体の中でのあり方、及び英語教員の能力を測定する問題のあり方について分析・考察を加えた。

3. 現在までの達成度

やや遅れている。

（理由）

(1) 当初の計画では、英語教員、英語教員志望者、教育委員会の3つの立場から、英語専門試験の妥当性について考察を加え、良質な教員採用試験（英語専門筆記）の研究開発及びその波及効果について研究を進める予定であった。

しかし、英語専門筆記試験で測るべき能力とは何か、敷衍すれば、優秀な英語教員に求められる能力とは何かという問題に帰着し、この本質的な問題を解決せずには良質な英

語専門筆記試験の開発は不可能であると考えに至った。そして、優秀な教員を担保する制度として、一次英語筆記専門試験は採用試験全体の中でどのような役割を果たすべきか、さらに波及効果として教員養成はいかにあるべきかという問題を解決することが重要だという認識に達した。

現在は、日韓の比較に立って、その二つの問題を中心に、研究を鋭意推進している。

(2)学校現場英語教員を対象にアンケート調査を行い、一定数の回収を行うのは予想以上に時間がかかり、困難であった。

(3)教育委員会に対して情報公開されている事実以上に踏み込んで意識調査を実施し、意見を求めることは、かなり難しい状況にある。

4. 今後の研究の推進方策

(1)韓国の新教員採用試験制度及び英語教員に求められる資質・能力基準について考察を加え、日本の英語教員に求められる資質・能力基準を開発する。その上で、一次英語専門試験のあり方を検討する。

(2)日本の教員採用試験に関する分析を加え、問題点を明らかにする。併せて、TOEIC・TOEFL等のテスト結果の採用試験での活用状況についても調査を行う。

(3)日韓の中高英語教員に対して実施した「中・高等学校教員採用試験(英語)の妥当性及び波及効果に関する調査」サンプル約500のデータ整理・分析を行い、一次専門試験問題の理想的なあり方について提言を行う。また、試験制度全体の中での一次専門試験のあり方についても具体的に言及する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

脇田博文(2009). [中等学校英語教員に求められる資質能力とは何か(2) 韓国中等学校任用試験制度の改革に伴う英語教員資格基準と評価方法の研究開発] 『龍谷紀要』第30巻1号, 査読有り。

脇田博文(2008). 「英語教員に求められる知識・能力とは何か 韓国中等学校教員任用選考試験(英語専門筆記)に関する実証的研究」 『龍谷紀要』第30巻1号, pp.19-36, 査読有り。

Shoichi Matsumura and Hirofumi Wakita (2007). 「The Role of the Employment Exam in Selecting Quality EFL Teachers」兵庫教育大学『人文論集』42号1・2, pp.197-207, 査読有り。

脇田博文・松村省一(2007). 「良質な教員採

用試験(英語専門筆記)の研究開発 日韓英語教員採用試験に関する意識調査に基づいて」(共同)『龍谷紀要』第29巻1号, pp.31-51, 査読有り。

(学会発表)(計6件)

脇田博文(2009年3月29日). 「中等学校英語教員に求められる資質能力とは何か(2) 韓国中等学校任用試験制度の改革に伴う英語教員資格基準と評価方法の研究開発」JACET関西支部海外の外国語教育研究会, 龍谷大学。

脇田博文(2008年12月24日). 「中等学校英語教員に求められる知識・能力とは何か 韓国中等学校教員任用選考試験(英語専門筆記)に関する実証的研究」JACET関西支部海外の外国語教育研究会, 龍谷大学。

Shoichi Matsumura and Hirofumi Wakita (August 2, 2008). "A blind spot in the views of subject matter experts on the EFL teacher employment exam" Paper presented at The 6th Asia TEFL International Conference in Bali.

Hirofumi Wakita and Shoichi Matsumura (June 30, 2008). "Assessing EFL teachers language awareness of language teaching on the employment exams" Paper presented at 9th ALA International Conference in Hong Kong.

Shoichi Matsumura and Hirofumi Wakita (October 28, 2006). "What are the qualities of "quality" EFL teachers?" Paper presented at the 14th Annual KOTESOL International Conference, Seoul in Korea.

脇田博文(2006年6月25日). 「英語教員に求められる能力とは何か 日韓英語教員採用試験に関する意識調査からの示唆 英語教員採用試験に関する日韓比較研究とTOEIC・TOEFL等の標準テストの応用可能性について」第36回中部地区英語教育学会和歌山大会シンポジウム, 和歌山教育大学。